

観光客数と移住者の関係性

多摩大学経営情報学部中庭ゼミ（地域政策・観光まちづくり研究室）4年

青木柊吾・荒金匠・今別府大志・峯脇由輝・吉田武司・村山昂大

1. はじめに

日本を代表する観光地というと、北海道の函館や京都などが挙げられる。これらの観光地は、毎年多くの観光客で絶えず賑わっている。しかし、日本の移住先ランキングでは、長野県や静岡県、山梨県が上位に選ばれることが多く、北海道や京都が選ばれることは極めて少ない。私たちは、観光地として人気な地域と移住先として人気な地域に差異があることに疑問を持った。

本研究では、各都道府県の観光地を比較するため、日本人観光客の宿泊者数と移住者率を4象限分布図にまとめた。この4象限分布図から観光客数と移住者数の相関関係の有無を調査する。そして、一定の観光客を獲得している観光地に移住者を呼び込むことは可能なかを検討する。

本研究を進めていくことで、少子高齢化や東京一極集中により人口が減少している地域に移住者を呼び込む方法や、観光地に観光客以外での地域活性化の方法を見出せるのではないかと考える。

2. 仮説

移住者ランキングの結果から、観光客数が多く有名な観光地でも、必ずしも移住者が多いとは言えない。これは、観光地としての機能の維持や強化にリソースを使っており、移住者増加への取り組みに手が回っていないからだと考える。

3. 4象限分布図の作成方法

4象限分布図では、横軸を観光客数、縦軸を移住者率に設定し、観光客を集めている観光地と移住者の多い観光地をポジショニングした。

観光客数のデータは、「REASAS」という地域経済分析システムを使用し、日本人観光客の宿泊者に絞ったうえで数値を出した。次に「生活ガイド.com」というサイトを使用し、比較する観光地の総人口と移住者を調査した。移住者率は、このデータを「移住者÷総人口×100」にした数値である。この数値によって、人口や規模の異なる観光地の移住者の割合を同じ条件下で等しく比較することができる。

4. 結論（4象限分布図からわかること）

各都道府県の観光地の、宿泊者数と移住者率の4象限分布図から、移住者の多い地域には共通する傾向が見られた。それは、都心へのアクセスが良好であること、コンビニやスーパーが充実し、駅などのインフラが整っていること、仕事や生活、土地への期待が高いことである。移住という面においては、生活の利便性が重要視されていることが分かる。

日光や函館といった日本を代表する観光地は、宿泊者数は多いが、移住者は少なかった。このことから、宿泊者数と移住者率は必ずしも相関するとは言えない。